⇒国境なき医師団は、安全基準を設けて、全員がそれに従って行動しています。活動地に入ると、危険度が上がった場合にどのように行動するか説明を受け、資料も渡されます。毎朝のミーティングでは、治安状況も共有されます。危険度がとても高いレベルに上がったときには、活動の一次停止や緊急退避、長期的に活動が困難な場合は撤退という決断をする場合もあります。

それでも過去には、残念ながら武装勢力同士の銃撃戦が活動地の近くで起こり、スタッフが銃撃に巻き込まれて亡くなったケースがあります。また、国境なき医師団が退避している間に病院が破壊されて、器材や薬が略奪されたケースもあります。このような場合は、すべての当事者や地域社会、国際社会に向けて、医療を尊重するよう強く呼びかけます。

「ほかにも、どのように子供や大人の検査をしているのか知りたいです。」（4年生）

⇒三大感染症と呼ばれるマラリア、結核、ＨＩＶ／エイズは、国境なき医師団の活動地でも深刻です。それぞれ次のように、検査を行っています。

・マラリア:医療体制があまり整わない地域でも使用できる、良質・正確・迅速な検査法を採用しています。

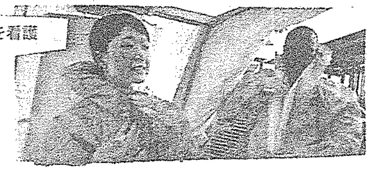
・結核:痰を採取して検査します。ただ、痰を出すのは子どもには容易ではありません。新しい分子検査では結果が2時間で判明しますが、安定した電力供給が必要で費用も高いのが実状です。

・エイズ:簡単な血液検査で診断が可能です。

その他、流行中のエボラ出血熱は、筋肉痛、発熱などの初期症状が他の病気と似ているため診断が難しいのですが、感染理由が明確な場合は患者を隔離し、確定診断のために数種類の検査を行います。

「海外の人たちはどのような怪我をするのですか？」（5年生）

⇒紛争や武力衝突が起きている地域では、空爆や銃撃に巻き込まれて重傷を負ったり、火災や爆発事故で重度のやけどを負ったりします。また、'なた'や鎌、ナイフで斬りつけられるケースもあります。自然災害の被災地では、倒壊した家屋の下敷きになったり、流れてきた家屋や岩などにぶつかったりして、重傷を負うこともあります。その他、交通が整備されていない地域では、交通事故の負傷者も多い傾向にあります。


エボラ出血熱治療センターにて患者を看護
[シエラレオネ/看護師]

「ＭＳＦの中でも、どの国の人が一番よく頑張っているのですか？」（5年生）

⇒どの国のスタッフも、活動地の国・地域で、事務局がある国で、最善を尽くそうと努力しています。日本からは 2014年、87人の海外派遣スタッフが、のべ 126回派遣されました。事務局では、約50人のスタッフが勤務しています。

☆☆

…児童による感想もご紹介します。

- こっきょうなきいしだんがけがやびょうきになりませんようにおいのりします。あいてのきもちをかんがえていこうとおもいました。（1年生）
- 学校に国境なき医師団のポスターがはってあったので、一回、会ってみたいと思っていました。お話を聞いたあとに、おいしゃさんになってみたいなと思いました。けがをしている人やびょうきの人をなおして人をたすけたいです。（2年生）
- 私は医者になろうと考えています。もともと（3年生になってから）医者になる夢をもっていましたが、ＭＳＦの話を聞いて医者は責任重大だなと思いました。でも、医者になる夢をまだ諦めたくないです。（3年生）

「谷口さんからの回答」の続きは（またまた）次号をお待ちください！ ☺☺☺

12/5 高中ミニコンサート 行ってきました☆

あの高井戸中学校の体育館も、風せんや星、
美しいたくさんの旗でかざられ、すっかり
よそゆきの顔をしていました。準備をして
くださっているのは、育成委員、高中PTAなど
主に地域の大人の方々ですが、年々、役割を増して
いるのが高中1~2年生の実行委員たち!! 何カ月も
前からミーティングを重ね、部活や生徒会とかけもちで
忙しい中時間をやりくりして、企画を練り上げて
くれました。委員だけのダンスも練習して、披露して
くれたのですが、それも、かっこよかった!! 浜小で
昨年ダンスを踊った子が今年は高中生として裏方の
役を務め、「準備してくれた人がこんなにいた
なんて、驚きました! ありがたいなと思った」と言って
くれました。ステキなコンサート、来年はあなたも
参加してみて下さい!! 浜小のダンスの他、高中の
吹奏楽、高東小の合唱、高小のダンスも、みんな
すばらしかったです☆ ご協力いただいた、お手伝いの方
出演者の保護者の方、ありがとうございました

皆様のおかげで
2学期の行事もとても
有意義なものとなりました。
3学期もたこあげ大会
もちつき大会が控えております。

みんなで楽しいひと時を
過ごしましょう。

サンキュー
PTA 会長

たこあげ会

1/10(日) 向陽中校庭にて
10:00~
当日も会場でたこを作成できます
たこのもちこみ OK
とび入り参加で大丈夫!
おもいきり、たこをあげよう

もちつきと昔あそびの会

1/16(土) 11:45~受付
浜田山児童館にて
つきたてのやわらかいおもち
手作りのとん汁
昔ながらのおあそび
まってまーす

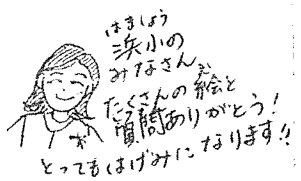
ⓐ PTAつうしん vol. 7

すごろくは、
国境なき医師団から
浜小のみんなへの
プレゼントです！
冬休みにどうぞ☆

平成27年 12月 24日
杉並区立浜田山小学校
校　長　三井 知之
PTA会長　佐々木 孝信

もうすぐ、子供達が心待ちにしている冬休みが始まりますね。2学期には震災訓練、連合運動会、こどもまつり、学芸会、高中ミニコンサート…と浜小生が参加するイベントが多数行われ、保護者の皆さんの胸にもたくさんの思い出が刻まれたことと思います。先生方のご指導と地域のご協力があってこそ、子供達は行事のたびにぐんと大きくなれるし、街の安全が保たれ、のびのびと育っていける…。そんなことも、PTAに関わることでより身近に感じ、感謝の気持ちを家族で共有し、また先生方や町内会や区役所の方々にそれをお伝えする機会も与えられることが、役員をやってみて初めて分かりました。PTAなんてなくてもいいんじゃないか。町内会なんて面倒だな。入学前はそんな風に思っていたＳ木ですが、今では、外からは見えにくいこの繋がりが、私たちをいかに支えているかを痛感しています。

一方、共働き世帯の増加などを要因としてPTAの担い手が減少しているという事実は、今や浜小PTAの大前提になっています。何と、12年前の常任委員会の議事録にも、これと同様の指摘が見つかりました。PTAの担い手が半減したと考え、その中でこの大切な役割をいかに果たしていくか。例えば、平日昼の通年の活動が前提の役員・三役・委員の役割で、削りたくない部分を洗い出し、それを1日～数日の単発の「お手伝い」に変えていってはどうでしょうか。ベルマーク、風作りなどは生徒の委員会を作って、任せてみてはどうでしょうか。その分、委員の数や、委員の平日昼の活動日数や、会議の数を減らすことはできないでしょうか。全員が小さな役割を1つずつ担う学校（お茶の水女子大学附属小学校）や、生徒によるベルマーク委員会が存在する学校（杉並区の小学校）もあります。PTAが「楽しい」「大切」「削れない」ものであることが分かったからこそ、「削らない・何も変えない」のではなく、活動の持続性を確保できるよう、方法を工夫していく。このような取り組みがますます重要になると8役では考えています。☺



「国境なき医師団」の谷口さんから皆さんへのお返事（2）　まだまだあります！

7月11日（土）に、国境なき医師団（「MSF」）の谷口さん達が浜田山小学校の皆さんのためにお話をしてくださったこと、覚えていますか？前回ご紹介しきれなかった回答の続きを今回載せますので、ぜひお読みください！（遅くなってごめんなさい！）

悲しいことに、今年10月3日、アフガニスタン・クンドゥーズ州のＭＳＦ外傷センターが米国による爆撃を受け、スタッフ12人が命を奪われ、19人が負傷（＊1）するという恐ろしい事件が起きました。その他、少なくとも10人の患者が亡くなっています（＊2）。爆撃の背景は明らかにされていませんが、センターは破壊され、運営を停止しています。これについて、ＭＳＦは「外傷センターは目下、医療活動のできる状態ではありません。膨大な医療ニーズがあるにもかかわらずです。」と述べています（＊3）。（出所：（＊1）・（＊3）ＭＳＦ公式ホームページ／（＊2）ＢＢＣ）

この事件の直後、複数の保護者の方から、「子どもが、『谷口さんたちの、国境なき医師団の人たちのことだ』『ニャル君たちの国境なき医師団が大変だ』と言って心配していました」というお話を聞きました。7月の講演が、子供達の胸に確かに刻まれていると実感しました。「まずは、知ることから始めてみましょう」という谷口さんのメッセージが皆に届いていると思いました。事件の真相が解明されることやセンターの再開を願うとともに、私たちも、ＭＳＦや国際情勢について知ろうとする姿勢を持ち、考え続けていきましょう。

皆さんの描いてくださった「ＭＳＦを応援する絵」は、12月12日に開催されたＭＳＦのシンポジウム会場でもたくさん張り出され、紹介されたそうです。皆さんの気持ちも、ＭＳＦに、世界に、届けてもらっています！！

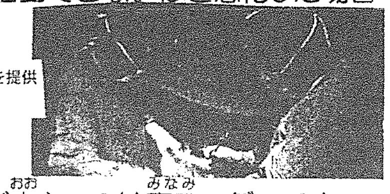
☆☆

「外国のどこへでも行って活動していますか？」（2年生）

⇒はい。国境なき医師団は、自ら現地に調査に入って医療ニーズを確認し、国際機関や国や他の団体の援助が届いていない人びとがいると判断した場合に活動を開始します。

たとえば災害規模が大きくても、他の援助が行き届いている場合は、活動を行わない、あるいは初期だけ活動して、その後、他に活動を引き継ぐという場合もあります。一方で、援助が届いていない状況が長く続く国や地域では、数十年にわたり、継続して活動している場合もあります。

このように医療ニーズを判断の基準としていますが、治安状況が活動できないほど悪化した場合は、残念ながら活動停止・一時退避や撤退をすることもあります。


情勢不安地域で外傷治療を提供
［パキスタン/外科医］

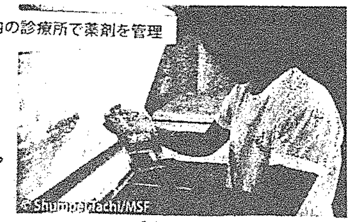
「どこの国で最も多く活動していますか？」（2年生）

⇒2014年実績で、現地で活動するスタッフ数と活動資金で、最も規模が大きいのは南スーダンです。（スタッフ数3996人／活動資金 8300万ユーロ＝約108億円）

外来診療数では、コンゴ民主共和国で2014年の1年間に、約160万人の患者さんを診療しました。

「病院に行くのに、歩いて4日もかかることがあると聞きましたが、食べ物はどうするのですか？」（3年生）

⇒南スーダンの場合は、食べ物をもっている人は多くはありません。ある家族は、5日間歩き続け、水たまりの水を服ですくって渇きをしのぎ、なんとかたどり着いた、という話をしてくれました。


南スーダン難民キャンプ内の診療所で薬剤を管理
［ウガンダ/薬剤師］

「1年のうち、どれくらいの期間、海外に派遣されるのですか？」（3年生）

⇒通常の派遣活動で、現地の活動や職種により1カ月から1年が一般的です。

（例）・紛争地で夜勤含め治療にあたる外科医や麻酔科医：1～2カ月

・物資調達・管理を行うロジスティシャン、人事・財務を担当するアドミニストレーター、現地スタッフへのトレーニングを中心とした活動を行う看護師、統括を行うコーディネーター職など：9カ月～1年

・その他の、医師（内科医、産婦人科医、小児科医、精神科医など）や、臨床心理士、助産師、看護師、薬剤師：3カ月～1年

突発的な大規模自然災害などでは、組織全体が24時間体制となるため、2週間程度でローテーションを組む場合もあります。

「ＭＳＦのスタッフが銃撃されるようなことはありますか？襲われたらどうしようと、怖くはないのですか？」（3年生）